Sanbe Field Museum News

さんべ発!

No.169　2021年11月号

島根県立三瓶自然館 ニュースレター

霧氷（むひょう）をまとう室ノ内の木々

冬晴れの朝、三瓶山を見上げると木々がふわりと白く、陽光に輝いていることがあります。白い花が咲いたようにも見えるこの光景は、冷え込みが厳しい日に見られる霧氷です。これは、氷点下10℃前後まで気温が下がった時に発生する現象です。空気中をただよう霧の粒が木の枝にぶつかった瞬間に凍ってくっつくことで、細い枝の一本一本まで氷をまとっていきます。

三瓶山で霧氷がよく見られるのは標高800m付近から上の高所に限られ、間近で見るには朝早く登るよりほかに手立てがありません。近づいて見ると霧氷は薄い氷が枝の片側に伸びていて、その形から「エビのしっぽ」とも呼ばれる面白い形状です。

日が昇り、朝日が木々を照らし始めると間もなく、霧氷は小さく割れながら枝から落ち始め、木々は冬枯れの色に戻ってしまいます。

見られる場所と条件が限られる、冬だけのとっておきの光景です。

昆虫の冬越し

冬になると目につく昆虫の姿はめっきり少なくなります。ほとんどの昆虫は寒さが苦手なため、冬季には無駄なエネルギー消費を避け休眠状態になってしまうからです。昆虫には、卵、幼虫、蛹そして成虫の形態がありますが、種類によってどの姿で冬を越すのかはさまざまです。今回は成虫で冬を越す昆虫たちを紹介しましょう。

マルカメムシ

エサキモンツキカメムシ

カメムシの仲間には成虫で冬を越す種が多く知られています。落ち葉の下では背中に白色のハート形の模様をもつエサキモンキツノカメムシが、朽ち木の隙間にはマルカメムシやクサギカメムシが越冬場所にしています。

草むらの枯草の下では体長５センチを超す大型の種のバッタ、ツチイナゴが成虫で越冬します。バッタの仲間は卵で越冬する種が多く成虫で冬を越すことができる種は稀です。春先に、草むらから急に大きなバッタが跳んでいて、びっくりさせられることもあります。キリギリスの仲間ではクビキリギスも成虫で冬を越す習性があります。

ツチイナゴ

キイロスズメバチ
（朽ち木から掘り出したところ）

スズメバチやアシナガバチも成虫で越冬します。暖かい時期には大きな巣を作り、たくさんの働きバチが暮らすのはミツバチと同様ですが、越冬の方法は大きく異なります。ミツバチは冬も巣を維持し、巣の中に溜めた蜂蜜を利用してたくさんのハチたちが冬を過ごします。しかし、スズメバチやアシナガバチは巣は冬には使われず、翌年女王になるハチのみ、朽ち木の中などの隙間に潜って越冬します。春になると毎年最初は女王バチが１匹で巣作りを始めます。

チョウの仲間では成虫で越冬するものが多く、タテハチョウの仲間のルリタテハやアカタテハ、シジミチョウの仲間のウラギンシジミなど10種類以上が知られています。

大きな翅をもつチョウでは狭い隙間に潜り込むことが難しく、冬季も茂っている葉の裏や樹木に止まって冬越しをします。

ウラギンシジミ

タテジマカミキリ

アカコブゾウムシ

意外な越冬場所としては、枝先につかまり冬を越す昆虫たちもいます。風雨をまともに受けてしまうため、越冬環境としてはかなり厳しそうですが、タテジマカミキリやアカコブコブゾウムシなどは、しっかりと枝につかまったまま春までひたすら耐えて過ごすのです。

冬にじっと動かない昆虫を見つけるのは容易ではありませんが、逆に発見できると嬉しいものです。寒い季節も頑張って過ごし春を待つ昆虫たちを見つけてみましょう。

自然も人も大好き!
ボランティアスタッフ「三瓶自然館インタープリター」

展示室での工作コーナー

天体観察

自然観察

親子工作

わくわくワゴン

調査活動（鳥類調査）

草原保全作業

当館には、「三瓶自然館インタープリター」というボランティアスタッフがいます。自然のおもしろさや不思議さなどを多くの人に知ってもらいたいという気持ちを持って自然観察を中心に活動する、自然が大好きなメンバーです。

「インタープリター」の名称には、この活動の深い意味が込められています。これは「翻訳者」や「通訳者」と訳される言葉で、自然からのメッセージをわかりやすく、楽しく伝える役割を担う活動です。

この活動は、当館が開館した翌年の平成4年度からスタートして29年目になります。開館当初は、この言葉の意味があまり知られていなかったので、「自然観察介添人」という名称を並記し、「解説者」や「指導者」という言葉を使わないことにこだわりました。

現在、三瓶自然館インタープリターは研修中のメンバー-を含めて65名で、年齢は20代から80代まで、職業も様々です。

活動も幅広く、自然観察会と天体観察会に加えて、イベントの「親子工作」や休日に展示室で行う「工作コーナー」、標本を活用してさわって感じて考えてもらう「わくわくワゴン」を行っています。また、北の原の植物や鳥類を100年間にわたって調査をする「モニタリングサイト1000」などにも参加しています。

一緒に活動してくれる仲間は、いつでも募集しています。活動に共感し、関心をお持ちになった方がいらっしゃいましたら、当館までお問い合わせください。

EVENT GUIDE

12〜1月のイベント

月イチガク⑧ **地層が語る7万年「年縞」**	**12/11**(土) 14:00〜15:30	1年ごとの地層のしま模様「年縞」からわかる自然の歴史を、福井県立年縞博物館の北川さんにうかがいます。	定員：20名 料金：大人300円 小人100円	要予約 ONLINE オンライン視聴も可能
お正月イベント	**1/2**(日) **〜1/3**(月) 9:30〜17:00	館内に隠れたテンピーを見つけて、あいことばを完成させて景品をゲットしよう。干支展示や写真コーナーも。	定員：なし 料金：入館料	
開館30周年記念事業 学芸員の仕事を体験してみよう **標本庫に入ってみよう**	**1/9**(日) 1回目10:30-12:00 2回目13:30-15:00	標本を大切に保管する「標本庫（収蔵庫）」でどんな標本が保管され、学芸員がどんな作業をしているのか紹介します。	定員：各回9家族かつ合計20名以下 料金：入館料	要予約 小学3年生〜中学生の子どもを含む家族またはグループ対象。
月イチガク⑨ **雲仙火山の噴火と災害**	**1/15**(土) 14:00〜15:30	1990年代の雲仙岳平成噴火の火山活動と災害について、雲仙岳災害記念館の長井さんにうかがいます。	定員：20名 料金：大人300円 小人100円	要予約 ONLINE オンライン視聴も可能
さんべの森たんけんたい **冬の森であそぼう**	**1/23**(日) 10:00〜14:00	雪が積もれば雪遊び、雪がなくても外遊び！　冬のさんべを楽しもう。	定員：家族8組 料金：大人300円 小人100円	要予約 幼児〜低学年含む家族対象。

要予約　このマークがあるイベントは、1ヶ月前から実施する施設ごとに電話で予約を受付します。

三瓶自然館：0854-86-0500　三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500　三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

新型コロナウイルス感染症への対策として、臨時閉館や展示やイベントを一部制限、中止する場合があります。変更の場合は、HP等でお知らせします。また、毎週土曜日の天体観察会は予約制で実施しています。

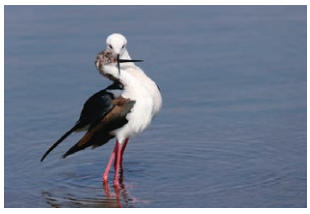
冬の企画展　第42回 SSP展　自然を楽しむ科学の眼

開催期間：12月25日（土）〜1月30日（日）　料金：大人800円・小中高生200円

※「ポケモン化石博物館」と同時開催、共通料金。

岸本日出雄「ジュエリーアイス」

日本自然科学写真協会（SSP）の会員が自然の一瞬をとらえた写真の数々を一堂に展示する写真展。地形景観、動植物や星景写真、顕微鏡写真で迫るミクロの世界など、見応えたっぷりの写真をお楽しみください。



戸塚学「ダンスの余韻」

横山和男「ヒメマス遡上」

島根県立三瓶自然館サヒメル

■開館時間
9:30〜17:00
■休館日
毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は翌平日）
7/17〜8/31は無休。
※年末年始、その他、メンテナンス休館あり

三瓶フィールドミュージアムニュース ＜隔月発行＞

編集・発行　**公益財団法人しまね自然と環境財団**
〒694-0003　島根県大田市三瓶町多根1121-8
TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501
＜エコサポしまね＞〒690-0887　島根県松江市殿町8-3　TEL 0852-67-3262

しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。
エコサポしまね（松江事務所）では、地球温暖化対策等の事業を行っています。